

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成23年度 第9回
開催日時	平成23年6月8日（水曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	田無庁舎1階 第2会議室
出席者	出席：白松委員、名古屋委員、藤原委員、渡辺委員、大野委員、蓮見委員、石田委員、今井委員、小野委員、富永委員 （欠席：高橋委員） 事務局：浜名課長、藤巻係長、貫井主任
議題	1 第8回男女平等参画推進委員会会議録の承認について 2 「平成21年度男女平等参画推進計画実績評価報告書」の市長への提出について 3 男女平等推進センターパリティの事業報告について 4 男女平等参画推進計画各課実績評価基準の見直しについて 5 平成22年度男女平等参画推進計画各課実績評価について 6 その他
会議資料の名称	1 第8回西東京市男女平等参画推進委員会会議録（案） 2 平成22年度男女平等参画推進計画各課実績評価 3 平成23年度西東京市男女平等参画推進スケジュール（案） 4 内閣府防災中央会議名簿（参考） 5 パリティ事業ポスター「災害と女性」
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>（開会）</p> <p>○委員長： 定刻になったので、第9回男女平等参画推進委員会を開催する。</p> <p>1 第8回男女平等参画推進委員会会議録の承認について</p> <p>○委員長： 第8回男女平等参画推進委員会会議録について、訂正等何かあるか。</p> <p>○委員長： なければ、第8回男女平等参画推進委員会会議録を承認とする。</p> <p>○各委員： 異議なし。</p>	

2 「平成21年度男女平等参画推進計画実績評価報告書」の市長への提出について

○委員長：

「平成21年度男女平等参画推進計画実績評価報告書」を4月25日（月曜日）に正副委員長、事務局で市長へ提出した。その時の様子を含めて、感想を述べていただきたい。

○副委員長：

市長に初めてお会いした。庁内推進委員会の定期的開催をはじめ、庁内推進体制の整備が進んでいない旨、委員長が市長へ提言した。

○委員長：

副委員長の市長への要望の追加として、男女平等参画というものは、基本的な概念としてどの部署であっても、女性の人権、男性の人権を大事に進めてほしいとの要望も出されていた。

庁内推進体制の整備について、6年間「評価C」が続いている。他の箇所にはないことであると市長に提言した。

○事務局：

施策については担当課の比重が多いので、工夫をするよう市長から指示があった。できる限り進めていく。

○委員：

市長から委員会への要望はあったか。男女平等について意欲的な印象を受けたか。

○委員長：

報告書の内容の概要（委員会からの要望）を市長に説明した。

○副委員長：

「第2次男女平等参画推進計画」について、承知している印象だった。

3 男女平等推進センターパリティの事業報告について

平成23年度西東京市男女平等参画推進スケジュール（案）について

パリティ情報について

○事務局：

資料「平成23年度西東京市男女平等参画推進スケジュール（案）」のパリティ情報の欄をご覧ください。平成23年度で計画されているものを掲載した。決定しているものは、男女共同参画週間事業の6月25日（土曜日）講師正井礼子「災害と女性」、基礎事業の9月3日（土曜日）講師橋口ヒロ子「暮らしの中に男女平等を根づかせるために」の2つになる。（その他予定、スケジュール参照）

○委員：

7、8月開催の基礎講座の目的としては、男親が子育てに積極的に参加することを促すということか。

○事務局：

目的として、昨年「男の子育て」の講座（ワークライフバランス、父親の育児家事参加、および育児休業取得啓発）を開催し、男性6人からなる団体「パパクラブ」が立ち上がった。その団体の人数を増やすため、父親と子どもの講座を開催したいとの要望があった。

また、基本的な趣旨は、男女が協力して家庭生活を支えるという意識をもてるよう、講座を通し父親に子どもとの関わり方を学んでいただく。

○副委員長：

これに関しては、男性にまず男女平等推進センターに足を運んでいただくのが第一歩ではないか。

○委員長：

阪神淡路大震災を経験し、今現在東北を支援されている正井礼子さんの「災害と女性」講座は是非参加いただきたい。

推進委員会について

○事務局：

委員会開催について、予算的には6回であるが、人数で計算すると最大10回できる。

○事務局：

スケジュール中、事務局の欄の「各課ヒヤリング（調整等）」の期間について6月～10月の矢印が抜けていたので訂正追加する。

○事務局：

推進委員会の開催開始時間について、30分繰り上げるとか、日中（日中の場合来年度からになる）にするなど変更しなくてもよろしいか。

○委員：

6時30分からでも可能である。

○委員：

スケジュールが決定すれば、日中でも大丈夫である。

○委員：

会社の関係で、日中は都合がつかない。

○委員：

日中は仕事で、家事もあるので、6時30分からがよい。

○事務局：

今年度8月から、開催開始時間を6時30分からとすることにご承認いただけるか。

○各委員：
異議なし。

○委員長：
それでは、次回第10回委員会から開催時間を30分前倒しにして、6時30分から8時30分とする。

○委員：
推進委員会の内容について、各課実績評価だけではどうか。委員会の命題は何か、それに対応しているのか。

○事務局：
前年度に比べ、今年度後半は10月に「企画運営委員会との意見交換会」、12月に「パリティの有効活用」、2月に「条例制定について」、3月「領域を超えた意見交換」と、委員会10回中4回に、他の議題を盛り込んだ。

○委員：
一回で条例制定ができるのか。

○委員長：
条例制定委員会を立ち上げるのか否か、この委員会でやるのかもまだ決まっていない。諮問にも表記されていないが、あしがりとして少しでも進めることが重要ではないか。

○委員長：
「平成23年度西東京市男女平等参画スケジュール」について承認いただけるか。

○各委員：
承認。

4 男女平等参画推進計画各課実績評価基準の見直しについて

1 前委員会からの引継ぎ事項について

○委員長：
予てから、以前の評価基準が現在と沿わないという意見が出されていた。お手元の「西東京市第1次男女平等参画推進計画実績5カ年総評価報告書」の「はじめに」の写しをご覧ください。それには、評価基準はこれまでどおりである。ただし『報告がなく空欄のもの』に当たるD評価は『空欄のまま』に該当するものが非常に少なくなっている一方、もともと『評価不能』ともいえる『本計画の事業に該当しない』というものまで含まれている。このため適切さを欠き、評価基準の見直しが課題となっている。今後の検討を踏まえ、具体的な提案を含めて次年度以降に引き継ぎたい。と表現している。

2 項目（主な取り組み）の修正について

○委員：

事務局に、いくつか質問がある。1. 「平成21年度男女平等参画推進計画実績評価」のABCD評価について各課には周知されているか。2. 22年度の実績と23年度の具合的な事業または取組み計画は、各課が同時提出になるか。

○事務局：

1. 既に知らせてある。2. 同時提出になる。

○委員：

なぜ、このような質問をするかというのと、評価基準の見直しならば簡単だが、同時に評価項目（西東京市第2次男女平等参画推進計画：主な取組み）を協議・検討・修正した方が、次の年（23年度）に向けて各課も記入および取組みやすいのではないか。

○委員長：

委員から評価基準見直しの他に、評価項目（西東京市第2次男女平等参画推進計画：主な取組み）の修正をするべきとの意見が出された。

○事務局：

西東京市の計画体系で、「男女平等推進計画」の上位計画となるものに「西東京市総合計画」がある。「西東京市総合計画」の計画期間は10年間という「男女平等推進計画」よりも、長期スパンになっている。そのため、後期5年間の開始にあたってのみ、社会経済情勢の変化や基本計画の評価、新たな市民ニーズなどを踏まえ、あらたに見直しを行っている。「男女平等推進計画」は上位計画である「西東京市総合計画」との整合性を図りながら策定しているので、必要に応じ随時見直しという表現になっているが、現状として厳しい。よって、そこは「第3次計画策定」についての申し送り事項としてご協議いただきたい。

○事務局：

「西東京市第2次男女平等参画推進計画」につきましては、既に開示されている。計画中の主な取組みを変更するということは、それも公表しなければならない。社会経済情勢の大きな変化等あれば見直しも可能だが、なければ5年間はこの内容で評価していただくことになる。計画策定の準備として、市民意識調査を行うなど実際3年かかる。その中で毎年、計画の中身を見直すということは無理が生じる。そういうことを加味して、5年計画が妥当であるという考え方でできている。

○委員：

既存の事業の項目によっては統廃合する必要がある箇所がある。見直しが出来ないのであれば、評価基準に「評価E」「評価F」を入れてはどうか。

3 質問1について

○委員：

以前から気になっていたことがあるが、各課は毎年目標・計画として「具体的な事業

または取組み計画」を立ててくる。それを実施すれば「評価A」になる。ただあくまでも5ヵ年計画なので、各課、1年ごとの目標・計画を立て、それを積み重ね5ヵ年計画を最終達成させるのではないか。もし単年全てが「評価A」であっても、施策が最終達成されないと意味がないかなと思う。例えば、毎年同じ目標・計画を立ててきた場合、1年目は「評価A」であっても、2年目以降は同じ目標・計画なので「B目標・計画・実施のどれかに改善の余地がある。」になる可能性もある。そう解釈してよいか。

○委員長：

毎年同じ目標・計画であって改善の余地があるのであれば、もっと新しい計画を立てていただきたいなどコメントをつけて、「評価A」を「評価B」にしたと評価するのは、致し方がない。

○委員：

質問がある。各課は5年間の計画をたてたうえで、毎年の目標・計画をたてているのか。

○事務局：

それは、項目によって変わってくる。例えばフォーラムの開催など予算が絡むものは、講座を何回やるという予算になってくる。回数を多くしても市として予算をつけられない場合がある。当然5ヵ年をかけて目標・計画を立てるものもある。よってそれは、取組みの内容によって読み取っていただくしかない。そこで読み取れない部分をヒヤリングで埋めていただきたい。

4 質問2について

○委員：

基本的なことを確認したい「A：目標・計画が明確で計画どおり、実施されている。」「B：目標・計画・実施のどれかに改善の余地がある。」の目標・計画とはどこになるか。

○委員長：

「西東京市第1次男女平等参画推進計画」の評価は、各課が記載する項目が5つあった。目標・計画という言葉があったが、「西東京市第2次男女平等参画推進計画」になってから新しく各課が記載する項目が3つになったので、これらの文言に変えなければいけない。では、表現も含めて評価基準の見直しをする。

5 評価基準の見直しについて

○副委員長：

委員、委員の意見のように各課の回答が内容に当てはまらない場合、第3次計画策定時のために当てはまらないということの評価に明記提案しておくのはいかがか。それとも、委員の意見のとおり評価基準に「評価E」「評価F」を追加するか。

○委員：

報告書にグラフがあるが、推移を継続して比較するために、平成21年度報告書と相違

がでにくいように同じ4段階（ABCD）がよい。ABはそのまま『「A：目標・計画が明確で計画どおり、十分実施されている。」「B目標・計画・実施のどれかに改善の余地がある。」』にし、CDを「C：目標にそった目標・計画が不十分である。」「D：未実施（報告がなく空欄含む）」に変更する。

○委員：

4段階（ABCD）の分け方に賛成である。ただグラフ上、21年度の評価基準が未実施を「C評価」にしているので、5年間の推移の整合性が気になる。その辺の注釈を加えればよい。

○事務局：

未実施のものについて、1年目は初年により「C評価」にしたが2年目以降は「D評価」にして厳しく評価した旨の注釈を入れれば継続性がでる。

○委員：

Aを良い、Bを普通とすると、表現にあまりにも差がある。Aの十分を取れば差がなくなる。

○委員：

21年度の報告が終了しているなか、市民に対してもあまり変えない方がよい。Aは十分を取るだけにして、Bはそのまま、Cは「C：目標にそった目標・計画が不十分である。」、Dは「D：2年目以降も未実施のもの（報告がなく空欄含む）」がよい。

○委員：

評価基準については、今までの意見に賛成である。

○委員：

「評価C」について「C：施策にそった目標・計画が立てられているが、未実施のもの」になるのではないか。そういうケースが多々ある。

○委員：

「施策にそった目標・計画が立てられているが、未実施のもの」は、B評価の「目標・計画・実施のどれかに改善の余地がある」になるのではないか。

○委員長：

委員の発言のとおり、改善の余地＝不十分になるのではないか。

○各委員：

協議、各課が記入し易い文言がよいのではないか。

○委員：

評価ABについては、文言だけの問題である。後は、委員のご意見の目標・計画が立てられているが予算がつかないなどの理由で未実施のものは、「D：未実施（報告がなく

空欄含む) 」とは違い「C: 施策にそった目標・計画が立てられているが、未実施のもの」に残してはというご意見がでています。

○委員長：

評価基準の見直しにつきましては、正副委員長と事務局で協議したものを皆さまに提示し、意見を事務局にいただいていくつかの案を提示する。それを7月13日の会議で審議・決定することにする。

5 平成22年度男女平等参画推進計画各課実績評価について

○委員長：

各課の実績評価の集約状況と今後の見通しを報告願いたい。

○事務局：

未提出の課がある。集まり次第、一週間（6月15日）を目途に委員の皆様へメールをする。

○委員長：

各領域は、去年と同じメンバーでよろしいか。

○委員：

現状を考えると、同じメンバーの方がより理解ができる。

○委員長：

2年目なので同じメンバーがよい。他のところを挑戦してみたいという意見があれば変えてもよい。

○委員：

たしか当初、領域“学び”をやりたい方が多かったので、希望の領域がある方は、変更しても良いのではないか。

○委員：

担当のところを読み込んだ。変更すると一からになるので同じがよい。

○委員：

担当したところは勉強したので、同じがよい。

○委員：

同じほうが、効率的だと思う。

○委員：

どちらでもよい。

○委員：

同じほうがよい。

○委員：

前年と比較することができるので、同じがよい。

○委員：

負担を考えたら、同じがよい。

○委員長：

では、領域を同じメンバーとする。また連絡係も同じとする。

○各委員：

承認

○副委員長：

各課実績評価について、次回委員会にて各領域に分かれ話し合い、同時に各課と話し合い（ヒヤリング）を持つか検討する。

○事務局：

ヒヤリングにつきましては、昼間に設定していただきたい。

○委員長：

それでは、6月15日を目途に送られてきた各課実績を個々で読み込む。7月13日の委員会では各領域に分かれ話し合い、同時に各課と話し合い（ヒヤリング）を持つか検討し、領域内で問題などあった場合、委員会に提案し全体の意見と調整する。9月14日の委員会では、まとまった評価の全体確認をする。以上、今後の流れとする。

6 その他

○委員長：

それでは、メールで送られてきた「平成22年度男女平等参画推進計画各課実績評価」を、各領域で役割分担などを話し合い各自解散とする。

○委員長：

次回委員会は、平成23年7月13日田無庁舎1階102会議室で6時30分から。
以上、閉会とする。